



月刊 織本

GEKKAN ORIMOTO

1

2015年1月1日 Vol.245

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



清瀬市から望む富士山

あけましておめでとうございます

理事長・院長 高木 由利



“田子の浦ゆ うち出でてみれば 真白にそ
富士の高嶺に 雪は降りける”
山部 赤人

病院の4階の西側の窓から見える美しい富士山を見る度にこの歌が心に浮かびます。

* * *

2014年12月13日は病院のクリスマスコンサートでした。今年は1年間厳しい仕事の中でクタクタになって合唱の練習をしてきただけに、この日は本当に晴れ舞台になりました。小さな小さな織本病院混声合唱団のコンサートですが、毎年100名近いお客様がいらして下さることにいつも感動し感謝をしています。



全11曲を歌い上げるのは私達にとっては大きなチャレンジでした。私は今年の夏頃から自分は何のために歌うのかを考え続けてきました。昨年1年間、私の患者さんが何人も亡くなられ淋しい思いを体験する中で、患者さん達が私に残して下さった様々な言葉を思い起こしました。その数々の思い出の言葉が“クリスマスコンサートありがとう”だったのです。コンサートにいらして下さった方々の明るい笑顔や言葉を病院の中で聞かせて頂けることが私の歌う喜びだと感じました。聴いて下さる方がいらっしゃるから歌えるのだと、この当たり前のことがとても大きな心の支えになっていたのです。

今年もまた小さな合唱団は第九を歌いました。グスタフ・クリムトの描いた金色の胄を纏ったベートーヴェンの絵の前で心から歌いました。第九の“合唱”の歌詞はシラーの詩であり“An die Freude”（歓喜の歌）と呼ばれています。ところが、出だしの歌詞だけはベートーヴェンの作詞なのです。“おお友よ、このような旋律ではない！もっと心地よいものを歌おうではないか。もっと喜びに満ち溢れるものを。”これを通常は男性のバリトンのソロが客席に向かって雄々しくベートーヴェンの言葉として歌うのですが、織本病院合

唱団は男性合唱全員が声と心を1つにし歌いました。

私は毎年第九を歌いながら、この曲を歌い上げていくのと私達が毎日行っている医療を行うことに深い共通点を見出しています。合唱団は誰一人音はずしてもいけないし、歌詞を間違えてもいけない。小さなポイントを大切に忠実に守ることが基本です。病院

の日々の仕事も全く同じだと思うのです。今年1年、小さなこと些細なことにも目を向け、心に向け、職員1人ひとりと共に大切に医療を行っていかうと考えています。

クリスマスコンサートを応援して下さった皆様に心から感謝申し上げます。



新年の ごあいさつ

専務理事・事務部長 箕輪 比呂志



あけましておめでとうございます。

皆様それぞれの思いを胸に新年をお迎えのことと思います。昨年は、異常気候とも言える集中豪雨によって土砂崩れなどの災害に見舞われた地域が沢山ありました。これらの後遺症に苦しんでいる方々を思うと心が痛みます。

* * *

これまで5年間にわたり、月刊織本に当院を題材として「ブランドと仕事」という題名で手記を書いてきました。そして、この織本病院ブランドを築くためには、理念、ビジョン、戦略を職員が共有して、組織が一丸となった経営が不可欠と考えてきました。このような病院経営を目標として、2年程前に1年をかけて高木由利理事長と私が中心となり、定期的に部署毎の戦略会議を開催したことがありました。しかし、この1年間で新たな入職者もあったことや理念への理解に疑問を投げかけるような事例も散見されたことから、更なる浸透を目指して、今年度は戦略会議を再開します。そして、これらの理念に行動指針を付け加えることとなります。

もうひとつの重要なことがあります。それは組織体制です。これまでも組織変更を行ってきましたが、今年度も織本病院が組織力を発揮するための組織変更を行うこととなります。

この清瀬の地で患者様に必要とされ、信頼される病院になるために、職員一同、原点に帰り「学習の年」と位置付けていますので益々のご支援をお願い申し上げます。

副院長 藤木 達雄



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様のおかげで織本病院も無事に新しい年を迎えることができました。昨年はアフリカを中心としたエボラ出血熱の流行や、国内ではデング熱の数十年振りの流行など、新たな脅威も出現してきましたが、幸いにも大事に至らず1年を締めくくることができました。

今後、さらに新しい疾患の流行や自然災害などに対し、今までと違った視点からの病院づくりもしていかなければならないと考えております。課題はたくさんありますが、より良い病院を目指し、職員一丸となって努力してまいります。皆様、これからも織本病院を愛し、温かなご支援を頂けますようお願い申し上げます。



透析センター長 大徳 聖哲

明けましておめでとうございます。

織本病院に勤務して1年が過ぎました。当院の透析患者の皆様の顔、名前、病状がようやく繋がるようになってきました。昨年1年間は、その時々にかかる出来事に対応するので精一杯でしたが、今年は各患者の皆様に対し、繋がった流れのある医療を提供し、少しでも安心して透析療養生活を送っていただくことを目標に日々駆け廻りたいと考えております。

また、昨年11月より透析センター長を拝命され、安定した透析医療の提供、活気ある充実した職場環境の整備を目標に、医師、看護師、臨床工学技士、看護助手、クラークの5職が各々の役割を全うし、太く頑丈な5本（5職）の柱を打ち立ててまいりたいと考えております。

まだまだ医師としても人間としても未熟な私ではありますが、どうぞよろしくお付き合いください。

看護部長 田中 優子

明けましておめでとうございます。

新しき年を迎え、新年のお慶びを申し上げます。

昨年の1つひとつを思い起こせば、例年になく大変なことが沢山あったように思いますが、患者様やご家族の方々との温かい触れ合いがあり、信頼して頂いたことに大変感謝申し上げます。また、折々に職員が助け合いながら“チーム織本”を発揮して頑張っていました。辛く、忍耐を強いるようなことも何度かありましたが、職員の1人ひとりが明るく前向きに努力を続けていることに深く感謝し、また誇りにも思います。

数年前に『JIN-仁-』という視聴率の良いテレビ番組があり、その中に緒方洪庵先生が登場しておりました。ご存じの通り、蘭学者であり医師でもあり、日本最初の病理学書「病理通論」を著した方です。また、種痘を広めて天然痘の予防に尽力され、「日本近代医学の祖」と称されています。この緒方先生の人生観の1つに「名を求めず、利を求めず、ただ他の人のために生き続ける」という考えがあり、そのもとで実学を教えておられたようです。先生は、「何を学ぶかによって人間の中身は変わっていく。どういう関心を持ってどれだけ時間を使ったかによって、どういう中身になるかということが決まってくる」とも言っておられたようです。つまり、意識して取り組めば人は変わることができるということなのだと思います。“意識する”という単純なことでも克己心がいり、継続は更に難しいのですが、人それぞれに違った何かに取り組むことはできるように思います。

年の初めに高邁な精神に触れ、感謝と誓いを新たに、1年を過ごしたいと思います。



第162回 腎疾患ゼミナール新春特別講演会

シェイクスピアの魔法

— シェイクスピア作品の中での
老いについて —

【講師】 Sachiko Ishimaru

演出家 石丸 さち子 氏

早稲田大学演劇専攻を卒業後、演劇の仕事始める。蜷川カンパニーなどで、10年余の俳優活動後、蜷川幸雄作品の演出助手演出補を務める。2009年に独立後、新しい俳優を育成するための俳優私塾 POLYPHONIC を開設。2010年には Theatre Polyphonic を設立して、古典から現代作家の新作まで幅広い作品を企画演出している。2013年には、NY オフブロードウェイの国際演劇祭に、オリジナル脚本のミュージカルで日本人として初参加。最優秀作品賞、最優秀演出賞、最優秀作詞賞を獲得した。

2015年 1月22日(木) 12:30 開場 13:00 開演

オリモトホール (織本病院 4F) 入場無料

主催 / お問い合わせ : 医療法人財団 織本病院 | 042-491-2121

腎疾患ゼミナールからのお知らせ

2月からは通常の腎疾患ゼミナールを開催します。皆様のご参加をお待ちしております。



2015年 メインテーマ

『腎不全の理解を
深めましょう』

— 前期日程 —

【ワンポイントアドバイス】

第163回	2月19日(木)	栄養科 (レシピ・試食付き)
第164回	3月19日(木)	薬局
第165回	4月23日(木)	栄養科 (レシピ・試食付き)
第166回	5月21日(木)	看護部
第167回	6月11日(木)	栄養科 (レシピ・試食付き)